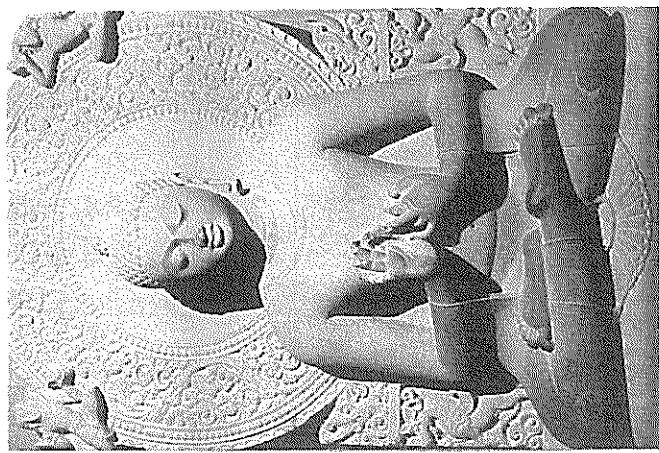


お釈迦さん・阿彌陀さん。そして

私が佛に成る



釈尊が説かれた縁起の教えは、仏教の根本である。写真は釈尊初誕法輪像（インド・サルナート博物館蔵）

Question ぶつきょう 佛教は、お釈迦さんが説かれたと聞いています。お寺にお参りしても（真宗の寺）には、阿彌陀さんがお祀りされていますが、お釈迦さんが祀られていないのは、なぜですか？
お釈迦さんと阿彌陀さんとの関係は？

Answer いま 今から2500年前、お釈迦さんはインドのシャカ族の皇子として誕生されました。誕生日は4月8日と伝えられています。29才の時、人間として（自分自身）の悩みごとの解決のため出家されます。6年間厳しい修行を積まれますが、身体をいためる苦行は中断され、何日間かの瞑想の暁に覚者と成られました。
その後、覚られた内容を自分一人で味わっておられました。人間の代表である梵天が説法するのを固辞されているお釈迦さまを説得されます。全ての人間が理解できなれないが、理解できる人も必ずいるはずだからと、お釈迦さまに説法するよう勧請され立ちあがられたのです。その後45年間説法の行脚を続けられました。80歳で亡くなるまで説法を続けられました。2月15日と伝えられています。

お釈迦さまは、我々と同じ人間ですから誕生日もありますし、ご命日（涅槃と云います）もあります。結婚もされ一人の息子さんもおられます。ただ、我々と違うところは、人間に起ってくる、悩み・苦しみの原因を徹底して見つけられたことです。

我々と同じ人間がブッダー（佛）と成られたのはお釈迦さん一人だけです。お釈迦さんとインドのシャカ族出身ということで見込みを込めてお呼びしています。釈尊・釈迦牟尼世尊・世尊ともお呼びしています。私達が「おかみそり（帰敬式）」を受けて佛弟子となりますが、その時に頂く法名に『法名……』『法名釈尼……』釈になににいただきます。その「釈」は、お釈迦さんの弟子になったという意味です。

ここで大事なことは、瞑想の暁に覚者と成られたということは、いくらお釈迦さまでも肉体のある限り問題（煩惱）を持ち続けられました。生きていくためには食欲もあったでしょうし、体調のすぐれない時もあったでしょう。

「ブッダ最後の旅」と云う本に。

「アーナンダよ。わたしはもう老い朽ち、齢をかさね老衰し、人生の旅路を通り過ぎ、老齢に達した。わが齢は八十となった。譬えば古ぼけた車が革紐の助けによってやっとな動いて行くように、恐らくわたしの身体も革紐の助けによってもっているのだ。」（岩波文庫p62）

お釈迦さまは私たちと同じ人間です。道を求められて覚られたということは、人間を超えられたとか、云うのではあられません。道理に目覚められたのです。道理は、お釈迦さまがおられようと居られまいが、既にあったのです。ただ道理がカバーに覆われていて見えなかった。そのカバーを除去されたということです。

世の中の道理を發明されたのではなく、道理を発見されたのです。覆われていたカバーを取り除いて「真実のはたらき」を見つけたのです。それを縁起（因縁）の法則と云います。

このあたりの事を、親鸞聖人はこんな詩で教えて下さっています。

【語註】

【久遠実成阿彌陀佛】

道理のはたらきは、始めもなし、終わりもなし。

【五濁の凡愚】

私たちの日常の姿。

【迦耶城】

お釈迦さまの誕生された都の城。

【応現】

私たちの生活に応じて対応して下さる。

久遠実成阿彌陀佛

五濁の凡愚をあわれみて

迦耶城には忘現する

（浄土和讃）

（つづく）